

### 【梅雨末期の大雨に注意】

1/1ページ

梅雨が終わりに近づくと、西から暖かく湿った空気が押し寄せ、さらに南からも暖かい湿った風が吹いてきます。よく天気予報で「前線を刺激（しげき）して活発になる」と説明する状況です。

＜梅雨時の大雨災害事例 — 名称の付いた災害だけ挙げています＞

名称	期間	概要	死者等	全半壊
令和2年7月豪雨	2020年7月3日～7月31日	西日本、東日本、東北地方。特に4日～7日九州で記録的な大雨。球磨川など大河川が氾濫。	86名	6,125棟
平成30年7月豪雨	2018年6月28日～7月8日	西日本を中心に全国的。台風7号も追い打ちをかける。	232名	17,636棟
平成29年7月九州北部豪雨	2017年6月30日～7月10日	西日本、東日本。5日～6日西日本で記録的な大雨。台風3号も追い打ちをかける。	43名	1,412棟
平成24年7月九州北部豪雨	2012年7月11日～7月14日	九州北部を中心に大雨。	33名	2,582棟
平成18年7月豪雨	2006年7月15日～7月24日	長野県、鹿児島県を中心に九州、山陰、近畿、北陸地方。	30名	1,539棟

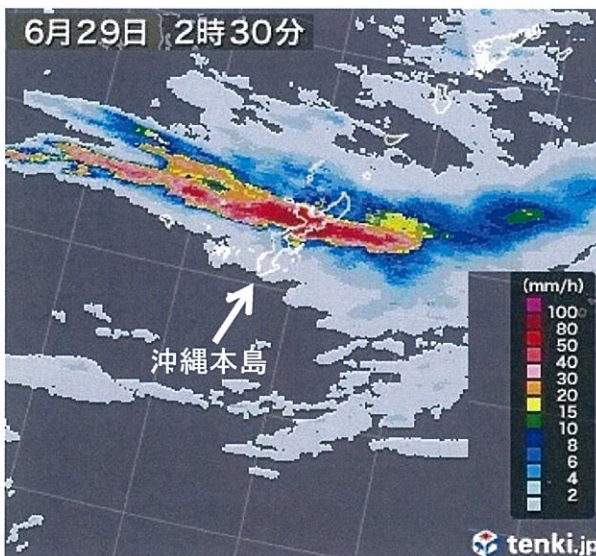
出典：国土交通省気象庁 災害をもたらした気象事例から被害状況は消防白書  
全半壊には、床上・床下浸水は含まない



←左のリンク先をみると毎年梅雨時に大雨災害が発生していることがわかります

### 【顕著な大雨に関する情報 ＝線状降水帯発生情報】

2021年6月29日、初めて沖縄地方に発表される



出典：tenki.jp 沖縄気象台

### 【大雨への対応】

1. 気象情報や災害情報に充分留意し、一人一人が状況に応じて自ら判断する



気象庁 キキクル



2. 危険個所の把握が困難な場合は、屋外での移動は極力避ける。
3. 道路が浸水している時などは、自動車による避難は極力控える。
4. 指定された避難場所への移動だけでなく、自宅の2階等へ緊急的に避難し、救助を待つことも選択肢とするなど、状況に応じた適切な判断と行動をする。

出典：内閣府 防災情報のページ